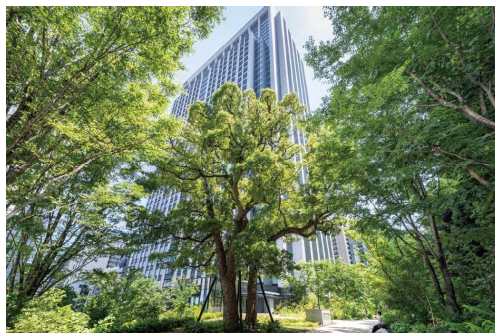


「第42回 緑の都市賞 都市緑化機構会長賞」受賞 東京ワールドゲート “葦城の森”

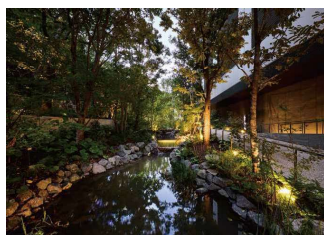
東京ワールドゲートは、江戸の歴史が残る台地と東京の経済を担う低地の狭間にあり、自然と人工、歴史と文化、日本と世界が交わる舞台としての環境づくりを目指して開発しました。

外構には約 5,500 m²の緑地空間「葦城の森」を整備しており、古くから敷地内に位置していた大クスノキの移植保全や、雨水循環利用によるビオトープの整備といった生物多様性の維持に取り組んでいます。また、緑豊かな広場や園路にはテラスやベンチを設置するなど、自然の中で誰もが安全で快適に過ごせる環境を整えており、住もう人、訪れる人、働く人の往来とにぎわいを創出しています。



①大クスノキ

敷地内に位置し歴史をつないでいた樹齢 100 年を超えるクスノキの巨木を、立曳きによる移植を行うことで保全。敷地の高台に鎮座した大クスノキは、地域のシンボルとして来街者を出迎える。



②ビオトープ

流れの幅の強弱や水際にひだのようなエコトーンをつくり出すことで、多様な棲息環境を形成。建物の地下ビット雨水貯留槽で、地中熱を利用し緩やかに冷やした雨水を循環させ、エネルギー負荷を低減。



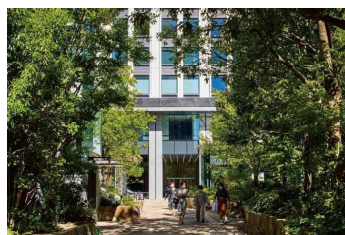
③水辺テラス

緑の中を抜ける風や光を享受でき、都会の中での健康的なパブリックスペースとなる屋外テラス。テラスの脇にはビオトープから続く小川が流れ、せせらぎと鳥の声に包まれた居心地の良い滞留空間を形成。



④葦城稲荷神社

地域の歴史や環境をつなぐ新たな拠点となる「葦城の森」には、豊かな緑と清らかな水とともに江戸時代初期から鎮座する葦城稲荷神社を整備。国内外の多様な人々を招き入れる環境の実現を目指す。



⑤アプローチ通路

地下鉄神谷町駅からのアプローチ通路。隣地に挟まれ、せばまった敷地形状を逆手に取り、緑に包まれた象徴的なゲート空間を形成。通路を抜けた先にはオフィスエントランスがあり、緑を感じながら通勤可能。



⑥オフィスエントランス

オフィスエントランスからは登り庭を望むことができる。3D モデルを用いた日照シミュレーションや見え方のスタディを丁寧に行うことで、緑の気持ちよさを享受でき落ち着きのある滞留空間を創出。

